

グローバル5大学(G5)連携事業
大学のグローバル化に関する大学教職員研修

グローバル化の 質の向上とマネジメント

2014年
日程 10月9日(木) 10月10日(金)

場所:上智大学 2号館17階国際会議場

主催:グローバル5大学(国際教養大学、国際基督教大学、上智大学、
立命館アジア太平洋大学、早稲田大学)
協力:特定非営利活動法人JAFSA(国際教育交流協議会)

定員 50名

対象者 国公立私立大学教職員

参加費 20,000円(懇親会費・交通費・宿泊費別)

研修の目的

大学のグローバル化とは、教育の中身や大学のあり方が世界中の大学と比較され、競争にさらされることにはかならない。各大学では学生の受入数、派遣数について挑戦的な目標が掲げられ、事業の「規模感」が重視される一方、増え続ける海外プログラムの中身の充実化や質の確保、持続可能な運営体制の構築は真のグローバル化を図る上で喫緊の課題であり、またそれを実現するためのマネジメントのあり方が問われている。本研修ではグローバル化の質の向上とそれを可能にするマネジメントに焦点をあて、各大学からの事例を学びながら課題解決のヒントを探る。また、大学間教職員の情報共有の場として、ネットワークを構築する機会となることを期待する。

ワークショップ

ファシリテータは、G5各大学のスタッフが担当いたします。ワークショップの各テーマはレクチャーと連動しています。4つのテーマから第三候補までを選択してください。応募者多数の場合は、主催者側で調整いたします。

- 1 アクティブラーニングプログラムとそのマネジメントにおける課題
- 2 留学生派遣受入の運営体制と留学の実質化
- 3 留学生交流の促進と質保証
- 4 多文化共生キャンパスとマネジメント

1日目 10/9(木)

13:00 -13:20	開講式 オリエンテーション 挨拶 (20min)	挨拶:上智大学 学長 早下 隆士 司会:上智大学 学事局グローバル教育推進室長
13:20 -14:30 (1h10min)	基調講演 「グローバル化する高等教育と日本の大学の役割」	上智大学 学術交流担当副学長 杉村 美紀
(20min)	Coffee Break	
14:50 -16:05 (1h15)	レクチャー ① 「アクティブラーニングプログラムとそのマネジメントにおける課題」	国際基督教大学 学務副学長 森本 あんり
(20min)	Coffee Break	
16:25 -17:40 (1h15)	レクチャー ② 「留学生派遣受入の運営体制と留学の実質化」	国際教養大学 事務局次長/国際センター長 磯貝 健
18:00 -20:00	懇親会	会場:上智大学教職員食堂

2日目 10/10(金)

9:30 -10:45 (1h15)	レクチャー ③ 「留学生交流の促進と質保証」	早稲田大学 国際教養学部 准教授(前留学担当教務主任) 間藤 茂子
(10min)	Coffee Break	
10:55 -12:10 (1h15)	レクチャー ④ 「多文化共生キャンパスとマネジメント」	立命館アジア太平洋大学 事務局次長 太田 猛
12:15 -13:30 (1h15)	Lunch(随時)【予定】 キャンパス・ツアー	
13:30 -16:00 (2h30)	ワークショップ グループ(10-15名)x4 ●アクティブラーニングプログラムとそのマネジメントにおける課題について ●留学生派遣受入の運営体制と留学の実質化 ●留学生交流の促進と質保証 ●多文化共生キャンパスとマネジメント	ファシリテータ レクチャー担当者
(15min)	Coffee Break	
16:15 (30min)	ワークショップのまとめ発表	ファシリテータ
16:45 (15min)	閉講式	上智大学関係者

参加申し込み

お申し込みはオンラインで承ります。

専用WEBサイト

<http://g5-seminar.jp/2014/>

参加申し込み期限

9月4日



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

運営事務局 株式会社アクセスロード

TEL : 03-5774-2330 (G5研修担当)

e-mail : access-g5seminar@access-t.co.jp

グローバル5大学(G5)連携事業
大学のグローバル化に関する大学教職員研修

グローバル化の質の向上とマネジメント

各レクチャー・ワークショップ概要

レクチャー①～④はワークショップ①～④と対応しています。

基調講演

「グローバル化する高等教育と日本の大学の役割」

上智大学 学術交流担当副学長
杉村 美紀

グローバル化が進む中、高等教育においては競争と効率性を重視した改革が優先される傾向がある一方、大学が本来担ってきた知の構築の意味を改めて見直す動きも高まっている。アジア諸国の高等教育改革の展開をみると、資金を獲得できる研究・教育プログラムが優先され競合しているが、同時に進展してきた教育連携の枠組みでは各国の教育機関が協働し、国・大学レベルの双方で高等教育の新たな枠組みづくりとそこでの教育のあり方を模索する動きがある。こうした多様化する政策動向の下、われわれ日本の大学が担うべき役割とは何か。高等教育政策と大学教育のあり方という観点から検討する。

レクチャー①

「アクティブラーニングプログラムとそのマネジメントにおける課題」

国際基督教大学 学務副学長
森本 あんり

大学のグローバル化は、組織や体制ばかりでなく、教授内容の活性化をまっしてはじめて実質あるものとなる。海外の大学と比較すると、日本の大学では授業に対する学生の期待度が低く、学生の主体的な授業参加や課外の自主的な学修時間も少ない。このような現状を変革するには、学生に学びのオーナーシップをもたせることが重要である。今回は、そのために有効な手段としてウェブ学修ツールの実用例を紹介し、活気ある授業運営の方法と課題を探る。

レクチャー②

「留学生派遣受入の運営体制と留学の実質化」

国際教養大学 事務局次長/国際センター長
磯貝 健

世界中の国々でグローバル化に対応する人材育成が謳われ、各国政府もそのための支援に乗り出している。日本の大学もグローバル化への対応を急ぎ、留学生の派遣・受入、教員交流などが活発化ようになってきたが、そもそもの大学のミッション、留学の目的、意義、運営体制、意思決定方法などが本当に適切なものであるのか、一度立ち止まって検証してみる必要がある。今回は「留学の実質化」の意味についても議論したい。

レクチャー③

「留学生交流の促進と質保証」

早稲田大学 国際教養学部 准教授(前留学担当教務主任)
間藤 茂子

早稲田大学では現在約4,700人の外国人学生が学んでいるとともに、年間約3,000人の学生が海外での学びを体験しており、その数はいずれも日本一を誇る。“世界につながるグローバルキャンパス”をめざし、質の高い国際交流プログラム・国際教育環境の整備・促進に向けてどのような取り組みをしているのか、留学生受入・派遣の両側面から事例を紹介する。

レクチャー④

「多文化共生キャンパスとマネジメント」

立命館アジア太平洋大学 事務局次長
太田 猛

立命館アジア太平洋大学(APU)は、学生、教員とも約半数が外国籍の多文化環境を創り上げているが、それだけでは多文化共生キャンパスにはならない。授業、寮生活、学生自主活動など、あらゆる場面で学生・教職員が交流し、文化の違いを体験し、理解したうえで共生していく術を身に付ける必要がある。APUで取り組むそうした様々な仕掛けとそのマネジメントを紹介する。

参加申し込み

■ お申し込みはオンラインで承ります。

専用WEBサイト <http://g5-seminar.jp/2014/>

参加費のお支払いについては、お申し込みの際にご連絡いたします。

参加申し込み期限

9月4日



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY